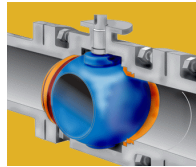




ボールバルブ症候群にご注意下さい

ボールバルブ症候群とは？

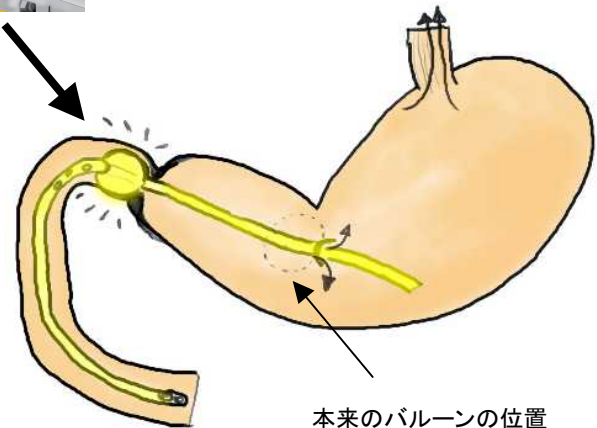


ボールバルブ

胃液唾液の嘔吐

1. 病態、原因

バルーン・チューブ型カテーテルのバルーンが、胃蠕動により幽門から十二指腸に排出されてしまったり、胃瘻 (or PEG-J) の入れ替え時に十二指腸球部でバルーンを膨らませてしまった場合に嵌頓してしまう状態である。これにより、十二指腸の閉塞が発生し、胃液の腸管への排出が妨げられ、胃拡張、嘔吐、脇漏れを生じる病態である。バルーンが蠕動で幽門を超える原因は、外部ストッパーがないもの、外部ストッパーがゆるんでずれている事にある。



本来のバルーンの位置

2. 症状

繰り返す嘔吐と脇漏れ。吐物は、殆どが胃液で、栄養は通常に滴下できているにもかかわらず、胆汁や栄養剤が混入しないことが多い。

3. 診断

外部ストッパーの位置が、通常(3-4cm)よりずれて7-8cmとなっていることが多い。嘔吐などの症状を繰り返すことで気がつく。CT、胃瘻造影、内視鏡検査で確定診断。

4. 治療

透視下もしくは内視鏡観察下で、バルーンを虚脱させて、胃内腔に引き戻し、バルーンを再度膨らませて、外部ストッパーの位置を調整して固定する。外部ストッパーの位置は、皮膚から1cm程度の余裕がある程度で固定する。

5. 予防

- ・外部ストッパーの位置をずれないように管理する。ストッパーの固定が緩い場合には、糸やテープで固定するか、バンパー型やボタン型への交換も検討する。
- ・PEG-J交換時にはバルンの位置が十二指腸に位置しないように注意する。



再掲

薬剤師さんからのお知らせ

ツインラインNF配合経腸用液

ラコールNF配合経腸用液(イーエヌ大塚製薬)新発売

中央病院は10月下旬から導入済

“NF”は「new—formula(新規格)」の略。既存品は**ビタミンKを多く含み、ワルファリンの作用を減弱**することがありました。そのため、ワルファリン投与患者でも使いやすいよう、**ビタミンKを他の経腸栄養剤と同程度(1/10)に減量した製剤へ変更されました**。ただし、現在のラコール、ツインライン併用でワルファリンのコントロールされている患者において、新製品へ切り替えとなった際に**ビタミンK摂取減量による作用増強の可能性**があるため、凝固能のチェック・ワルファリンの減量を考慮する必要があります。